

# ほんばこ



愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2022

立春。暦上は春の始まりです。旧暦では一年の始まりは立春とされており、様々な決まり事や季節の節目はこの日が起点になっています。皆さんも気分転換や新たな自分探しのために読書をしてみてはいかがでしょうか。

2月(如月・木芽月・梅見月)

\*\*二十四節気\*\*

立春 4日

初めて春の兆し表れてくる頃のことです。旧暦では新年が始まります。この季節から最初に吹く南寄りの強い風が春一番です。

雨水 19日

降る雪が雨へと変わり、氷が溶けだす頃のことです。昔から農耕の準備を始める目安とされてきました。

## 図書委員からお薦めの本

『嫌われ松子の一生』 山田宗樹 著 幻冬舎 出版

私がお薦めする本は、「嫌われ松子の一生」という本だ。この本は、父からの愛情に飢えていたために父の望むまま地元の高校教師となった川尻松子という女性が、修学旅行先で生徒が起こした事件をきっかけに送ることになる転落人生の話だ。希望や愛を見つけては失う松子。その姿を、どこか他人事だと完全に割り切れない人も多いただろう。些細な選択で人生は変わる。その選択をするのはいつだって自分自身だということ、神とは何か、愛について、この本はそういった様々なことを考えさせられる本だ。映画化、ドラマ化、舞台化もされているため、是非そちらも見てほしい。

(1年生女子)

## 3月図書館開館予定

(○:開館 x:閉館)

| 日  | 曜日 | 行事          | 図書 | 日  | 曜日 | 行事  | 図書 |
|----|----|-------------|----|----|----|-----|----|
| 1  | 火  | 卒業証書授与式     | x  | 11 | 金  |     | ○  |
| 2  | 水  | 高校入試準備      | x  | 12 | 土  |     | x  |
| 3  | 木  | 高校入試(生徒休業日) | x  | 13 | 日  |     | x  |
| 4  | 金  | 高校入試(生徒休業日) | x  | 14 | 月  |     | ○  |
| 5  | 土  |             | x  | 15 | 火  |     | ○  |
| 6  | 日  |             | x  | 16 | 水  |     | ○  |
| 7  | 月  |             | ○  | 17 | 木  |     | ○  |
| 8  | 火  |             | ○  | 18 | 金  | 終業式 | ○  |
| 9  | 水  |             | ○  | 19 | 土  |     | x  |
| 10 | 木  |             | ○  | 20 | 日  |     | x  |

## お願いとお知らせ

県立図書館協力図書の返却期限の最終日は、3月7日(月)です。入替えが予定されていますので、必ず期限を守ってください。特に卒業生は必ず返却してください。

その他の本は 3月23日(水) が返却期限の最終日です。

また、3月の終業式以降は23日・24日の2日間、午後のみ開館しています。卒業生で勉強に来る人は制服で来てください。

薦めてみる本 老舎『駱駝祥子（らくだしょうし、Luò tuo Xiáng zi）』 中国

1 老舎（ろうしゃ、Lǎo Shě）：中国の作家。本名は舒慶春、字は舎予。1898年北京生まれ。先祖は清朝満州旗人。父親は義和団事件で戦死。一家は貧しく、北京の裏長屋に住む。幼なじみは多く人力車夫となる。1911年辛亥革命。1912年中華民国建国宣言。老舎は小学校、高等小学校、師範学校と学び、成績が優秀だったので18歳で北京市内の小学校長となる。1919年五・四運動。老舎は教育関係の視学（教育を監督する係）となる。1921年教育界のエリートコースを捨て、平民教育の教育機関である北京教育界の書記となる。このころクリスチャンになる（注1）。1924年ロンドンの東方学院の中国語教師となる。ロンドンで『張さんの哲学』『趙子曰』『馬家の父子』を書く。パリ、シンガポールを經由して1930年帰国。山東省の斉魯大学教授となる。『大明湖』を書くが1932年の上海事変で消失。林語堂のユーモア雑誌『論語』の執筆者の一人となる。1933年『離婚』を書く。1934年山東大学へ。1936～37年『駱駝祥子』を書く。1937年日中戦争勃発。抗日・戦意高揚の作品を書いたりしていた。1943年『火葬』『四世同堂』（1937～42年の占領下北京市民の生活を描く）を執筆しつつ1946～49年アメリカ滞在。1949年10月中華人民共和国成立。12月帰国。戯曲『方珍珠』。1950年代には文芸界の要職を兼ねつつ『西望長安』『茶店』など。1967年文化大革命の初期に紅衛兵の暴行を受け絶望して自死したと言われる（注2）。今は名誉回復している。（集英社世界文学全集の立間祥介の解説を参照した。（注1高橋由利子（上智大）「北京自主独立教会とロンドン会」（漢文学会『中国文化』2009.6.27）。注2夏宇宙継「老舎と老舎研究」神奈川大学『国際経営論集』2000.11.25 など）

2 『駱駝祥子』（ネタバレします）：老舎三十代の作品。舞台は20世紀初頭の北京。主人公の駱駝祥子は、農村から北京に出てきた貧しい車夫。頑強な体を持ち、口数は少なく、自分の車を持って体で稼ぐことを夢見て歯を食いしばって働く若者だ。だが、革命騒ぎの中で兵隊に車を奪われ、あるいは握っていたわずかな金を奪われ、さらには押しかけ女房と結婚して貧乏長屋に居を構えるも妻が出産時に死亡、絶望の淵に立つ。人間的な曹先生や親切な車夫仲間との交流もあったが、近所の貧しい小福子という女性の死でさらに絶望する。

祥子：駱駝の祥子と呼ばれる。内戦騒ぎの時敗走軍が捨てていった駱駝三頭を引いて歩いたのでこの名がある。農村出身で北京に出てきた。北京を愛している。社会の底辺で暮らしつつ、他とは違った生真面目な生活であったが、社会に踏みつけにされ、人間的な道徳心も失っていく。

フーニエ（「フー」は虎、「ニエ」は漢字変換できなかった。）：祥子が入りする車宿の娘。虎のような気性と容貌を持ち、男性が寄り付かない。まじめな祥子を気に入り、押しかけ女房になる。贅沢をしすぎて出産時に死亡。

曹先生：大学教授。祥子をお抱え車夫にした。人間的な情愛があり、祥子を大事に扱う。学生の理不尽な私怨により官憲に追われる。

二強子：貧乏長屋の車引き。年を取り体が動かなくなり娘を軍人の妾に売り飛ばし、事業を始めるが事業は失敗、酒浸りとなる、女房を蹴り殺す。

小福子：二強子の娘。軍人の妾に売り飛ばされるが、身一つで捨てられ貧乏長屋に戻る。酒浸りの父親と弟二人を養うため私娼となる。祥子と心の交流があったが、生活のため娼館で働き、自死。

これは悲劇だ。北京の下町の最も貧しい人々が生活苦の中で押しつぶされていく姿を描いている。格差社会。貧困。兵隊の横暴。富裕層の虚飾。強者が弱者を踏みつけにする。貧しい庶民にはこずいやりとりもある一方親切もある。この社会では貧しい車夫が自暴自棄になるのもやむを得ない、と作家は同情的だ。二強子は娘の小福子を売り飛ばし酒浸りとなる。ドストエフスキー『罪と罰』のマルメラードフも娘ソーニャに売春をさせ自分は酒浸りだ。ただしマルメラードフ父娘にはキリスト教信仰がある。二強子と小福子にはそれはない。ラスコーリニコフは知識人だが駱駝祥子には教育がなく言葉を持たない。救いはどこにあるのか？ 努力家の祥子、良心的な曹先生、けなげな小福子に可能性を見ようとしたのか。なお、中国で『駱駝祥子』は何度か改訂され、本文は訂正・削除された。例えば1951年の『老舎選集』本では、末尾の、駱駝祥子が小福子の死を知り最後は祥子自身も死んでいくという結末は、底辺の労働者にとってあまりにも希望がないので、削除したとされる。アメリカでの英訳本は“Ricksaw Boy”（E.King 訳）の名で1945年に出版、ベストセラーとなる。結末は改めてあり、駱駝祥子が小福子を救い出す。（集英社世界文学全集解説の立間祥介による。）

（図書研修課 Y）